

認知症サポーター養成講座
兆しに気づく細やかな気配りを

町主催の認知症サポーター養成講座が9月25日に商工会館で行われました。事業者向けは初開催で、商工会加盟店の10人が基礎知識や初期症状を見極めるポイントを学習。親子で参加した発案者の甲斐さんは「お客さんとのトラブルは年々増えている。早期発見の手助けをしたい」と日常の実践に意欲を語りました。



↑目を見て話を遮らないなど、対応のポイントを確認し、参加者同士で実践練習。

↓コースは福岡市の人気フレンチレストランの本田フシシェフ(田川出身)が創作。



田川グルメ&スイーツ列車「シュガーロード号」
田川の食材を使ったグルメ列車初運行

県と田川8市町村の連携による初の観光列車が10月7日に直方～油須原間を走りました。上野焼の器で本格フレンチ5品が提供された「へいちく浪漫号」内はレストランさながら。33組の応募の中から抽選で選ばれた県内各地の10組20人は、田川ならではの風景を眺めながらぜひいたくなひとときを堪能しました。

へいちくフェスタ2017
糸田線開業120周年の節目飾るフェスタ

糸田線開業120周年を記念した平成筑豊鉄道の「へいちくフェスタ」が、本社のある「金田駅」で10月14日から2日間開催されました。45店以上が出展した駅ナカマルシェをはじめ乗車体験やイモ掘り体験、鉄道部品の販売など、駅を身近に満喫できる企画がめじろ押し。会場の構内や車内は多くの人出でにぎわいました。



↑車内で鉄道模型を展示したミニ鉄道記念館も、親子連れの人気を集めました。

↓350食のソバを手打ち。購入の列に並ぶ客も熟練の手さばきに釘付けでした。



ソバの花フェスタ2017
新米や農産物も楽しめる美味しい催し

17回目となるソバの花フェスタが中原集会所(伊方)で10月8日に行われ、ステージイベントや新米300kgのすくい取り大会、直売などでにぎわいました。また、今年は会場周辺のソバ畑を例年の倍以上、約3万㎡に拡張。ソバ畑で遊んだり、白く広がる花のじゅうたんをカメラに収めたりする様子が見られました。

↓くす玉が割られ、嶋野町長⑤と鳥越館長⑥から新苗ちゃん(左から2番目)へ記念品が手渡されました。



「ふくちのち」来館者数10万人突破
年間目標を5か月早く達成

10月14日に図書館・歴史資料館「ふくちのち」の来館者数が10万人を突破しました。開館当初の3月に設定した年間目標数を約5か月も早く達成したことになります。節目の来館者は、町内のイベント帰りに初めて来館したという洲上新苗ちゃん(飯塚市)。母・彩さんは「きれいで本が探しやすい、ぜひまた来たい」と話し、図書カードを作成しました。

2017福智町「日韓交流事業」
広い視野と友情育んだ韓国での3日間

町内の小学5・6年生14人が9月16日から2泊3日の日程で、上野焼開祖・尊楷ゆかりの地である韓国泗川市を訪問。東城初等学校の22人と交流しました。古窯跡の見学や螺鈿漆器の工芸体験をはじめ、寝食を共にしながら交友を深めた子どもたち。異なる文化や言葉の壁を越え、海を越えた友情を育みました。



↑李朝時代の教育機関にあたる泗川郷校で、韓国の文化を体験する子どもたち。

↓上野焼陶芸館で真剣に品定め、隣接するふれあい市でも大売り出しを開催。



第22回 上野焼秋の窯開き
被災した小石原に向けチャリティー活動

上野焼の新作や割引商品が並ぶ「秋の窯開き」が10月13日から3日間、上野焼陶芸館と13窯元で開かれました。今年もJAL航空券や器など豪華景品が当たるスタンプラリーを開催。また豪雨で被災した小石原焼に寄付するチャリティーオークションなども実施され、多くの陶芸ファンが陶郷・上野を訪れました。